

No Resource No Venture

加藤ゼミ C 班

佐々木 長谷川 松尾 佐藤

＜なぜチェッカーサポートを選んだのか＞

私たちは今回社長にインタビューするにあたって、どういった企業の社長のお話を伺うかをまず考えました。そこでメンバーの中にベンチャー企業やベンチャーに関わる仕事にすごく興味を持っている人もいたのでこれから活躍していくと思われるベンチャー企業、チェッカーサポートに焦点をあてることにしました

＜株式会社チェッカーサポート代表取締役 伏見啓史さんについて＞

事業内容はチェッカーサポートがスーパーや百貨店からレジを代行し、教育してから派遣するというアウトソーシング事業を主に行っている。

社長の伏見啓史さんは 1969 年神戸市生まれ。龍谷大学卒業後、大手広告会社に勤務。販促デザインなどを経て、流通小売業向けの人材派遣事業の部署を新設し、統括責任者に就任。2002 年の退社後、1 月 21 日に株式会社チェッカーサポートを設立し現在に至る。

＜インタビュー概要＞

今回のインタビューを終え伏見社長から様々なことを学ぶことができました。まず、社長がすごいと思ったところは企業を起こす前も後も何事も全力で取り組んでいるということでした。それがわかるのもまず、20 歳のころ何を考えていたかという質問に対し、海外交流委員会でも部長を務め、大学を卒業し就職してからも業績を上げるなど常にトップに立ち、信頼を集めていたようです。

しかし、成功の背景には困難があったそうです。それは、資金集めや保証人を集めるなど、「ヒト」と「お金」のやりくりでした。それでも社長の人柄がよく信頼も厚いため、社長についてくる人が多く、その困難もうまく乗り越えたそうです。社長の人柄がわかるのは、これからの野心を聞いてみたところ、介護施設や託児所を作るなど家族の負担を減らす仕事にも積極的に取り組んでいこうと考えていたところでした。また、大学時代のころから自分は社会に対して何ができるかを考えてもいたそうです。

4. インタビューを終えて

社長からアドバイスをいただきました。

- ・常に自分に何ができるかを考える。具体的に動くことは難しいが、「何かしよう！」という気持ちを持つこと。
- ・プラス思考。マイナス面だけを見すぎて現状不満型の人が多い。何事にも不満をもらすのではなく、プラス思考で！
- ・与えられたことを全力で。100%の力でやっても失敗は多いが、精一杯、誠実にやり続ければ必ず見ていてくれる人はいる。がんばることにより見えてくるものがある。
- ・大学時代を大切に。時間はたくさんあるのだから自分の将来をじっくり考える。

これらのアドバイスのようにプラス思考で、目の前のことに100%の力で取り組むこと。それを大切にしてこれからの大学生活に活かしていきたいと思います。アポイントをとることから始まり、インタビューに至るまで自分たちが全部組み立てたのでなかなかない良い経験をさせてもらえました。このような機会を与えて頂いたことに感謝し、これからのゼミも楽しみにしていきたいです。